

近世に出会える街。

新

しんでん

田

大山祇神社

小鶴ヶ池

新田沼原

梅田川

藤川

食糧事務所

備荒倉

宮城電鉄

七殿ナリキ



両側に12棟ある食糧倉庫

農林水産省 宮城食糧事務所

・ 田んぼと畑と桑畑だった。
 ・ お椀こふせた様な山があった
 が、それをけずって建てた。
 ・ 東仙台公園(赤土公園)の所を
 けずって、もり土のたりない分
 と土壁にした。

● 仙台市は米穀事務所及び官舎
 を建設して農林省に寄附すべき
 事等申請した。

昭和9年5月1日付で現在地
 に建設が決定した。

昭和10年12月28日庁舎、昭和
 11年1月30日専用側線、同年4
 月20日政府倉庫がそれぞれ竣
 工、昭和11年6月15日、新庁舎
 等の開庁式を行った。

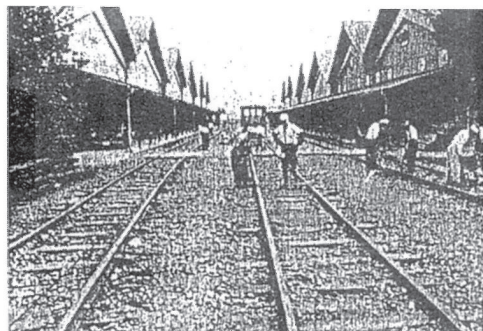
東仙台との間に専用側線総延
 長1460mが敷かれていた

が、昭和48年に一切の施設が撤
 去された。

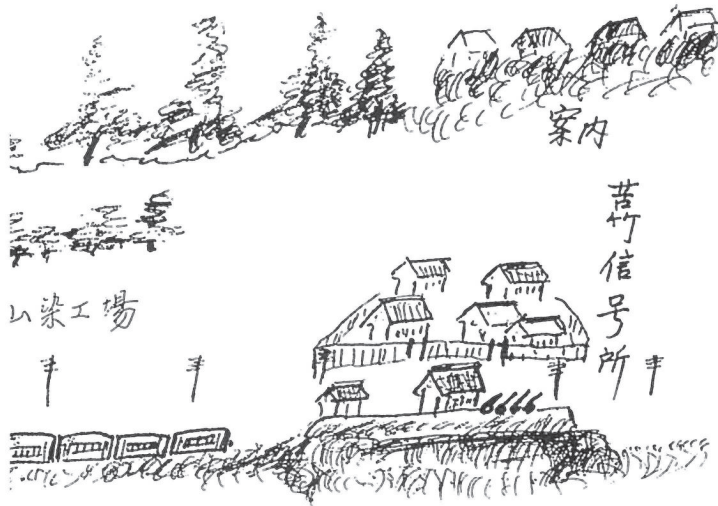
● 米の等数は1等〜5等まであ
 った。今は1等〜3等までにな
 った。

検査する人は農産物検査官の
 資格を持った人しか出来ない。

1等米 2等米 3等米



米穀倉庫鉄道引き込み線



混合列車

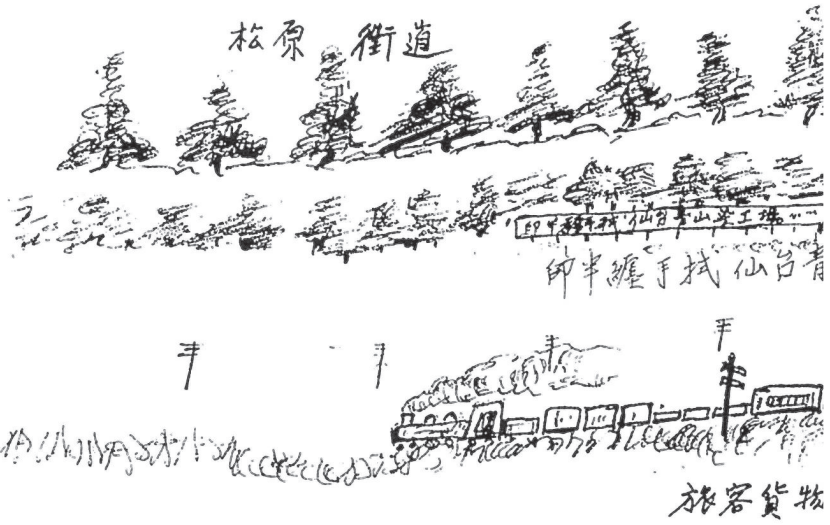
宮城電鉄、
新田駅

苦竹から新田に至る本道が宮電開通に伴い新田駅が開設されたために遮断されてしまった。代替として新道が造られ、本道の往來は絶え裏道になってしまった。

用水路に架かった木橋を渡って駅に入った。当時は単線で、現在複線になっている北側の線路上に建っていた。



当時の新田駅のプラットフォーム



大正年間の鉄道

駅員は初め2人が1人、のち無人駅となった。
 仙台駅までの運賃が5銭。
 駅前の用水堀は四ツ谷堰（梅田川）から引水したもので現在も灌漑用として利用されている。当時は小魚は無論シジミも取れた。
 終戦後頃まで野菜を洗ったり、風呂水としても利用した。（高沢さん）
 補遺 大正5年（1916）仙台、塩釜、石巻を走る、宮城電気軌道株が、山本豊治を社長として、創設。株数10万、資本金500万円、大株主に東京の玉屋時次郎20500株、社長は15000株、松良善熙17000株で、10000株以上は東京の峰谷金四郎、鈴木辰五郎、本県では伊沢平左衛門、佐藤啓次郎、大宮司雅之輔であった。着工以来、相当な年月を要し西塩釜まで開通したのが大正14年6月で石巻に達したのは昭和4年、同19年5月、国鉄に買収され仙石線と改称されたのである



フェンスの所が新田駅

る。ちなみに明治25年の仙台、上野間の運賃は、上等5円37銭、中等3円23銭、下等2円15銭である。
 （門脇記）

大正の頃

新田駅、大正14年。
 5銭で仙台まで、30分おきにあつ